

心の荒みをなくす

ひとつ拾えれば、ひとつだけきれいになる

毎年五月三十日は「ゴミゼロの日」とされています。これは昭和四十年代、愛知県豊橋市の山岳会で「自分のゴミは自分で持ち帰りましょう」を合言葉とする「五三〇（ゴミゼロ）運動」が提唱されたことが発端だそうです。

この運動はもともと「ゴミを拾うこと」だけでなく、「ゴミを拾う活動を通じて、ポイ捨てしない心を育むこと」を目的としたものでした。

人は小さなゴミでも放置されているのを目にするとき、その場所にゴミを捨てるへの抵抗感が薄れていきます。それは「環境が人の心に影響を与える」ということでもあるのではないかでしょうか。「掃除を通じて、世の中から心の荒みをなくしていきたい」との願いを持つて、日本全国、さらには海外にまで掃除の活動の輪を広げている「日本を美しくする会」という団体があります。かぎやまひさぶろう鍼山秀三郎さん（株式会社イエロー・ハット創業者）の提唱によつて始められたものです。

鍵山さんの名言に「ひとつ拾えれば、ひとつだけきれいになる」という言葉があります。今、この場所で、自分にできる精いっぱいのことをしたなら、周囲が少しでも明るくなつていく。どんなに小さな取り組みでも、周囲に感化を与え、実践する人が増えていったなら、やがて社会を変えるほどの力を生むことを、鍵山さんの実践は教えてくれます。

——私は汚れきった世界で自分の人生を送りたくはありません。生きるからには、正々堂々とした中で生きたいと思っています。そのために「日本の悪しき世相を変えてみせる」という志を持って、自分に関わりの持てる範囲から、小さな実践を積み重ねてきたのです。（中略）いつぺんに日本中をきれいにすることはできなくとも、自分の住む町、自分が関わりの持てる範囲から少しづつ、手を取り合つて変えていくことができたら、日本の未来はきっと明るくなります。

（参考＝鍵山秀三郎著『凜とした日本人の生き方』モラロジー道徳教育財団刊）